



# 幸せな子育てのため 親子を見守る活動を 地域に広げたい

絵本の読み聞かせからスタートして、ママたちがみずからアクションを起こし、親子を見守るNPO法人「こどもステーション」を設立。地域や企業を巻き込んで、子育てサポートからひとり親家庭支援まで、幅広く活躍する様子をお伝えします!

広島県 NPO法人 こどもステーション



NPO法人 こどもステーション  
広島県福山市神辺町道上2862-1  
TEL:084-965-6625  
月～金 10:00～16:00(木曜定休)



▲『子育て広場 もこルーム』は利用無料。授乳室や、保護者のためのお茶コーナー、マッサージ器も用意。



▲会員からサイズアウトした子ども服を集め、ひとり親家庭に配布。



## 地元の企業に支えられて、 親子が集う子育てひろばが誕生

「始まりは私が趣味で行なっていた絵本の読み聞かせ会でした」と語るのは、『NPO法人 こどもステーション』の理事長を務める奥野しのぶさん。読み聞かせ会に参加する親御さんから「子育てをする者同士、気軽に集える場所がほしい」と声が上がり、2005年に民間団体として『こどもステーション』が発足しました。

新たな拠点探しに乗り出す中、のちにNPO法人化のきっかけと言える転機が、広島ガス東中国の社長(当時・寿老一法氏)との出会いでした。寿老氏は福山市で自社ショールームの開設を考えており、同じ建物を子育てひろばの拠点にすることを提案してくださいました。1階ショールームの管理と利用も兼ねて2階の子育てひろばを運営することで、Win-Win-Winの関係が成立。2012年にアットホームな造りの『子育て広場 もこルーム』が誕生し、たくさんのおもちゃや遊具等が用意され、親子が楽しく遊びながら交流できる子育てひろばとなっています。

## 「大丈夫、あなたはひとりじゃないよ!」 ここはママたちの大切な居場所

『もこルーム』がオープンしてしばらくすると、次第にお母さんたちから子育てに関する悩みを打ち明けられるようになった奥野さん。その悩みの内容に合わせて『こどもステーション』の活動も徐々に拡大していき、現在は多岐にわたる活動を展開しています。

保育サポートをはじめ、離婚などで離れて暮らす親子の面会交流支援やひとり親家庭支援、子どもと若者の支援等の活動を展開。その他にもDV被害者支援として相談やカウンセリング等を行なっています。また、ひとり親同士が学び合う『しんぐるまさあずカフェ』や『こども食堂・もこちゃん』といった定期的な催しも開催。こうした集いやイベントを通して、この場所は支援が必要な親たちの大切な居場所となっています。

支援にあたる奥野さんたちは「居場所や相談の中から見えてきた・聞こえてきた声を放っておくことができず、行政サービスに繋げ、支援が足りない部分があれば、新たな支援の仕組みを作りたい。『大丈夫、あなたはひとりじゃないよ』という思いで活動を続けてきました」と話します。その言葉こそが、ママたちへの心強いエールとなっています。



▲『こどもステーション』の活動や、相談窓口を案内するリーフレット



◆子どもたちが自分の気持ちを言葉にするのが難しいときに、指さして伝えてもらうための『気持ちの絵カード』。(PriPri発達支援「絵カード[4]気持ち」より)

## 「いちご狩りイベントに60名が参加!」



GWを控えた4月下旬、ひとり親家庭を対象に開催されたいちご狩りイベントには、赤ちゃんから高校生までの子どもたちとママ総勢60名が、福山市内のいちご農園に集まりました。

この日のスタッフは、奥野さんをはじめとする左ページの6名。「久しぶり! 来てくれたんじゃね」「福山の○○においしいカフェを見つけたんよ」と声をかけたり、子どもたちにも「部活、頑張つる?」「小学校の給食おいしい?」とさりげなく日々の様子を気づかう言葉がけで、参加者の気持ちをほぐしていました。終了時に

は『フードドライブ』の取組みとして、各家庭に野菜やおやつの配布も行われました。

※フードドライブ:使いきれない未使用の食品を持ち寄り、必要な人々に寄付する運動。



この日の参加費は1世帯1,000円とリーズナブル。ひとり親家庭支援の運営費には、企業からの寄付で運営する「子どもの未来応援国民運動」の助成金を活用。

# 心の支えをなくすわけにはいかない! そんな思いから新しい挑戦を開始

これまで『子育て広場』の利用者も順調に確保できていた奥野さんたちですが、コロナ禍以降、利用者に変化が出ているそうです。

「私たちの広報不足かもしれません、コロナ禍を機に『子育てひろば』の利用者がかなり減りました。時期が過ぎれば持ち直すと思っていたのですが、いまだにコロナ禍前の状況には戻っていません。利用者からの紹介やクチコミが途絶えてしまったのでしょうか。それに加えて、人件費を捻出できないことによるスタッフ不足、活動を応援してくださる方からの寄付募集活動など、課題は山積みです。とにかく立ち止まってはいるので、一つひとつ解決していかねばと奮闘しています。」



そう語る奥野さんたちは、この春から新しい挑戦を始めました。“待ち”の姿勢ではなく、助けが必要な人を探し出し、サポートの入り口となるような取組みにつなげていこうという思いから、『てごうし隊』を発足。“てごうする”とは、広島弁で“手伝う”という意味。まずは手始めに、ひとり親家庭を対象にした食品支援を行なっています。『もこちゃん弁当』と名付けた手作りのお弁当や、お菓子やお米の入った『もこちゃんセレクトパック』は子どもたちにも大好評。こうした食品支援を足がかりに、必要な支援が、必要とする人たちに、ちゃんと届くような活動を拡大していきたいと考えています。

そんな奥野さんにこれまでの活動で印象的だった出来事を見ねると、ある利用者さんがお守りにしていた新聞の切り抜きについて教えてくれました。記事には奥野さんたちの活動が紹介されており、利用者さんは2年間もその切り抜きを大切に持っていたそう。「困った時は頼れる場所がある」という事実そのものが、その方の心の支えになっていたのかもしれない。奥野さんは「彼女のような人がいる限り、この場所をなくしてはいけないと、強く心に誓っているそうです。



## 「フードドライブ」の取組み



食品ロスの削減と、困っている方への食品支援にもつながるフードドライブ。余っている食べ物を持ち寄り、地域の福祉団体や施設、フードバンク等に寄付する活動はアメリカから起きました。奥野さんたちの団体でも、そうした寄付による食材の配布や、寄付食材を使った手作り弁当を、ひとり親家庭の親子にお届けしています。スタッフが一品一品、心を込めて作るお弁当。寄付はもちろん、調理や子どもの見守りに携わるボランティアも募集しています。



おいしそう♡